

平成25年度市民自治の実態等に関する調査 概要版

目次

第1章 調査の概要

第2章 調査結果の詳細

(1) 「地域」の範囲…………… 2	(14) 関心のある社会活動・地域活動…………… 15
(2) 地域の課題…………… 3	(15) 参加したい社会活動・地域活動の分野…………… 16
(3) 課題解決に有効な取組…………… 4	(16) どのような対価があれば 社会活動・地域活動に参加したいか…………… 17
(4) 課題解決のために負担できる時間…………… 5	(17) 参加しやすい活動範囲…………… 18
(5) 課題解決のために負担できる経済的負担…………… 6	(18) 地域で活動を行う場合に 気軽に使える場所…………… 19
(6) 社会活動・地域活動に関する情報の入手先…………… 7	(19) 公益性が高い社会活動・地域活動に対して 行政が支援すべき項目…………… 20
(7) 社会活動・地域活動への参加経験…………… 8	(20) 日常的な自由時間の使い方（余暇活動）…………… 21
(8) 社会活動・地域活動に参加したきっかけ…………… 9	(21) 自由時間が増えたらしてみたい活動…………… 22
(9) 社会活動・地域活動への参加状況…………… 10	(22) 就業状況…………… 23
(10) 活動の頻度…………… 11	(23) 自由記述欄の内容 （分類及び意見数（のべ））…………… 24
(11) 社会活動・地域活動に参加しない理由…………… 12	
(12) 社会活動・地域活動への参加による 対価の取得状況…………… 13	
(13) 社会活動・地域活動への関心度…………… 14	

第1章 調査の概要

1	調査の目的	本調査は、30歳から49歳までの子育て世代・プレシニア世代及び50歳から74歳までのシニア世代それぞれにおける、地域活動等に関する興味・意欲、生きがいに関する考え方や生活実態、市民自治意識等について把握することにより、多様な主体の連携による地域課題の解決に向けた取組の検討に活用することを目的とする。																
2	調査対象	(1) 川崎市内在住の30歳から49歳までの男女 (2) 川崎市内在住の50歳から74歳までの男女																
3	標本抽出	平成25年7月31日現在の住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出																
4	調査方法	郵送配布郵送回収法																
5	調査期間	平成25年8月29日～9月20日																
6	回収結果	<table border="1"> <thead> <tr> <th>調査種別</th> <th>標本数 (A)</th> <th>有効回収数 (B)</th> <th>有効回収率 ((B) / (A) × 100)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 30～49歳調査</td> <td>1,750標本</td> <td>576票</td> <td>32.9%</td> </tr> <tr> <td>(2) 50～74歳調査</td> <td>1,400標本</td> <td>647票</td> <td>46.2%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,150標本</td> <td>1,223票</td> <td>38.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※基数となるべき実数（n）は、設問に対する回答者数である。また、本文中の「百分率」は、小数点第2位以下を四捨五入して表示しているため、数値の合計が100%とならない場合がある。</p>	調査種別	標本数 (A)	有効回収数 (B)	有効回収率 ((B) / (A) × 100)	(1) 30～49歳調査	1,750標本	576票	32.9%	(2) 50～74歳調査	1,400標本	647票	46.2%	計	3,150標本	1,223票	38.8%
調査種別	標本数 (A)	有効回収数 (B)	有効回収率 ((B) / (A) × 100)															
(1) 30～49歳調査	1,750標本	576票	32.9%															
(2) 50～74歳調査	1,400標本	647票	46.2%															
計	3,150標本	1,223票	38.8%															
7	調査種別	(1) 30～49歳調査…回答者の属性／地域に対する関心・課題認識／社会活動・地域活動への参加の状況や認識／NPO法人などの市民活動団体への認識／寄付などによる団体の活動の支援／余暇・自由時間・趣味などに関する考え方／自由記述 (2) 50～74歳調査…回答者の属性／地域に対する関心・課題認識／社会活動・地域活動への参加の状況や認識／NPO法人などの市民活動団体への認識／寄付などによる団体の活動の支援／仕事／余暇・自由時間・趣味などに関する考え方／自由記述																

第2章 調査結果の詳細

< 「30～49歳調査」と「50～74歳調査」の二つの調査結果を合わせ、全体を分析している。 >

(1) 「地域」の範囲

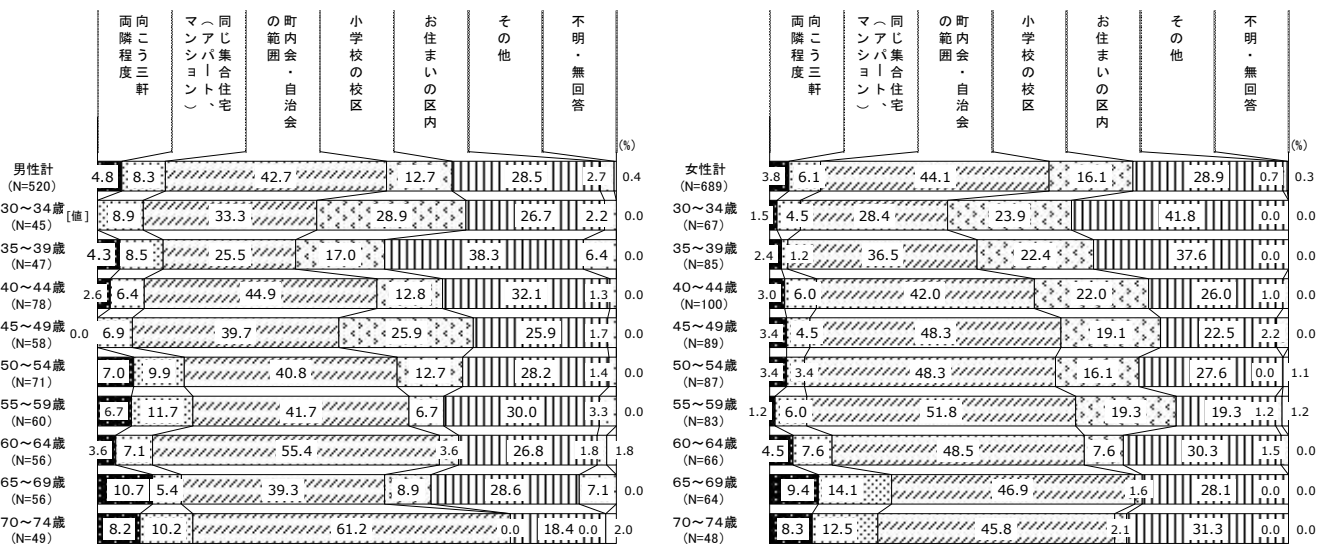
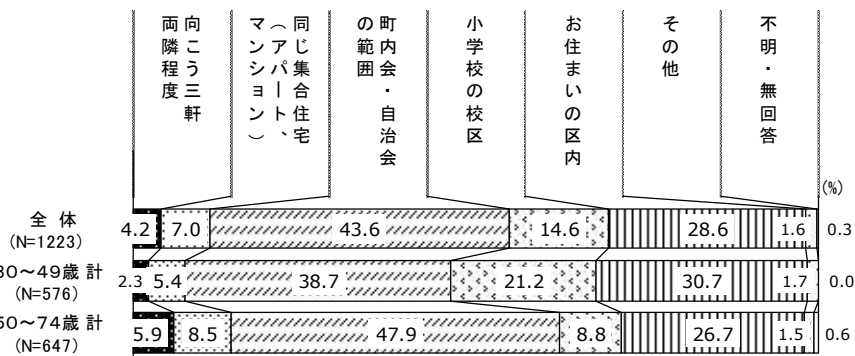
問1 あなたにとって、「地域」とは、次のうちの範囲をさすものですか。(○は1つ)

「地域」の範囲は、全体では、「町内会・自治会の範囲」が4割強、次いで「お住まいの区内」が3割弱。

調査別にみると、「町内会・自治会の範囲」が、「30～49歳」では4割弱、「50～74歳」では5割弱。次いで「お住まいの区内」が「30～49歳」では約3割、「50～74歳」では2割台半ば。

「地域」のさす範囲について調査別にみると、「町内会・自治会の範囲」では「50～74歳」(47.9%)が「30～49歳」(38.7%)よりも9ポイント高く、「お住まいの区内」では「30～49歳」(30.7%)が「50～74歳」(26.7%)よりも4ポイント高くなっている。また、「小学校の校区」では「30～49歳」(21.2%)が「50～74歳」(8.8%)よりも12ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「町内会・自治会の範囲」では「男性70～74歳」が6割を超えて最も高くなっている。

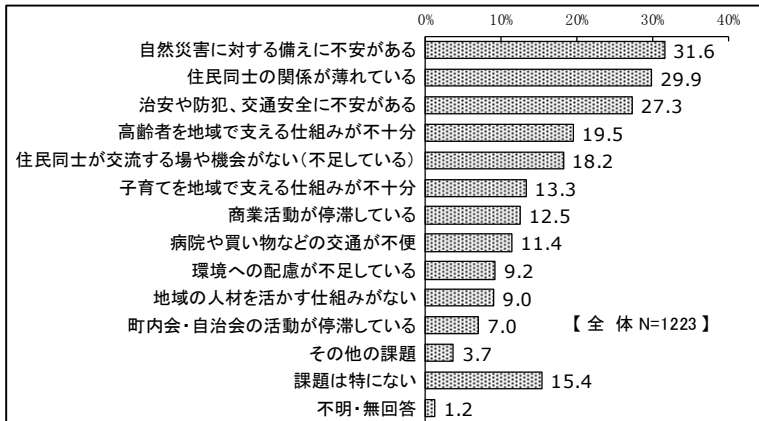


(2) 地域の課題

問2 あなたがお住まいの地域において、課題だと感じる項目を選んでください。
(○は3つまで)

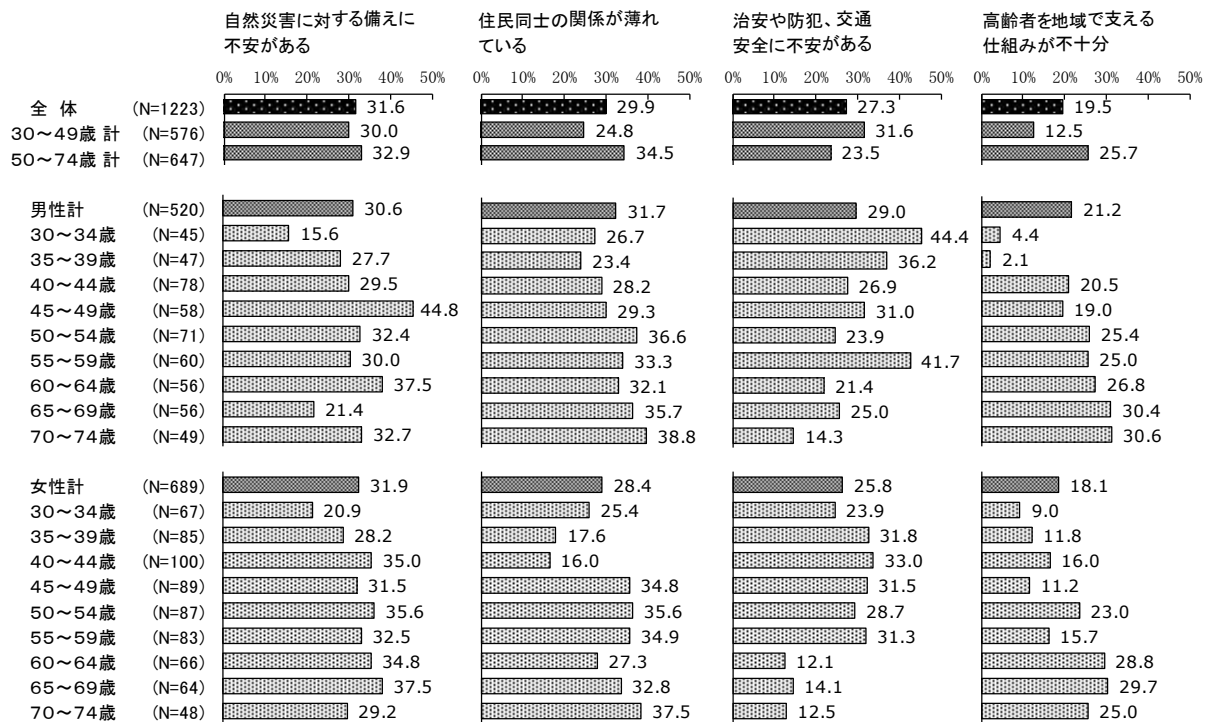
地域の課題は、全体では、「自然災害に対する備えに不安がある」が3割強。次いで、「住民同士の関係が薄れている」、「治安や防犯、交通安全に不安がある」がそれぞれ3割弱。

調査別にみると、「30～49歳」では「治安や防犯、交通安全に不安がある」が3割強、「50～74歳」では「住民同士の関係が薄れている」が3割台半ばで最も高い。



地域の課題だと感じる項目について上位4項目を調査別にみると、「住民同士の関係が薄れている」と「高齢者を地域で支える仕組みが不十分」では「50～74歳」が「30～49歳」よりも10ポイント以上高くなっており、「治安や防犯、交通安全に不安がある」では「30～49歳」が「50～74歳」よりも8ポイント高くなっている。

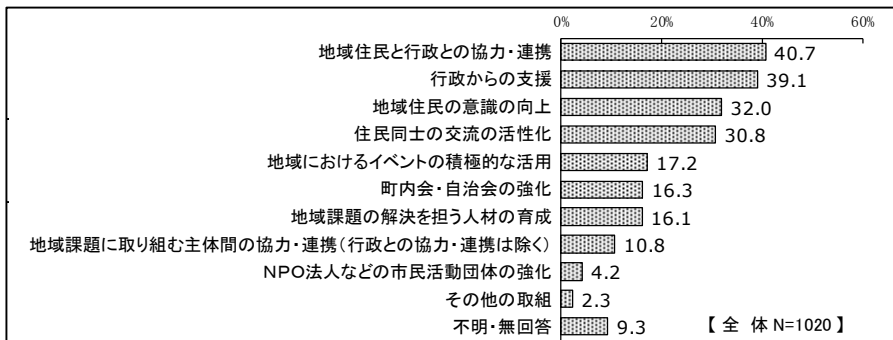
性・年代別にみると、「自然災害に対する備えに不安がある」では「男性45～49歳」が、「治安や防犯、交通安全に不安がある」では「男性30～34歳」、「男性55～59歳」がそれぞれ4割を超えて高くなっている。



(3) 課題解決に有効な取組

問4 あなたがお住まいの地域における課題を解決するための取組として、何が有効だと思いますか。(〇は3つまで)
 ※「課題は特にない」以外を選択した回答者が対象

課題解決に有効な取組は、全体では、「地域住民と行政との協力・連携」、「行政からの支援」が4割前後。次いで、「地域住民の意識の向上」、「住民同士の交流の活性化」が約3割。
 調査別にみると、「30～49歳」では「行政からの支援」、「50～74歳」では「地域住民と行政との協力・連携」がそれぞれ4割強で最も高い。

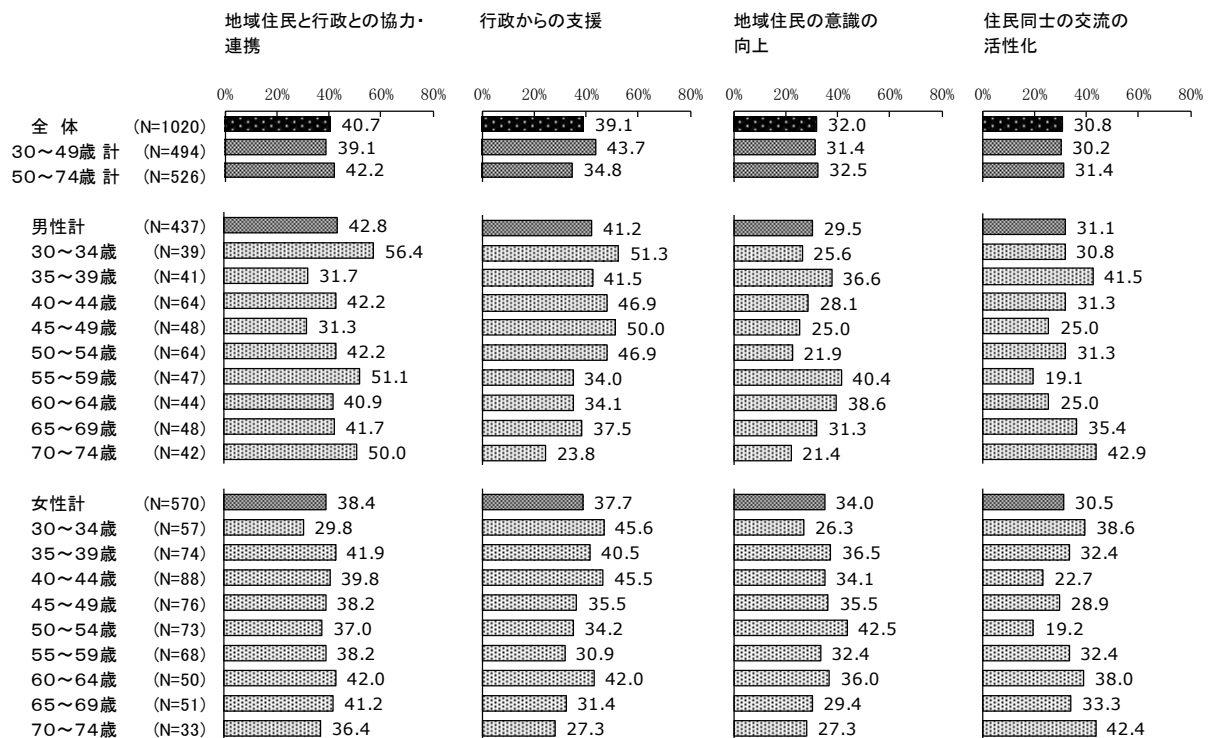


課題を解決するために有効だと思う取組について、上位4項目を調査別にみると、「行政からの支援」では「30～49歳」(43.7%)が「50～74歳」(34.8%)よりも9ポイント高くなっている。

性別・年代別にみると、「地域住民と行政との協力・連携」では「男性30～34歳」が56.4%で最も高く、「男性55～59歳」、「70～74歳」も5割を超えている。

また、「行政からの支援」では「男性30～34歳」、「男性45～49歳」が5割を超えており、女性は「30～34歳」、「40～44歳」が4割台半ばで高くなっている。

そのほか、「地域住民の意識の向上」では「男性55～59歳」と「女性50～54歳」が、「住民同士の交流の活性化」では「男性35～39歳」と男女の「70～74歳」がそれぞれ4割を超えて高くなっている。



(4) 課題解決のために負担できる時間

問6 あなたがお住まいの地域における課題を解決するために、
 年間にあなたご自身が負担できる時間、経済的負担はどれくらいですか。
 それぞれの()内に、あてはまる数字をご記入ください。

(ア) 時間

※「課題は特にない」以外を選択した回答者が対象

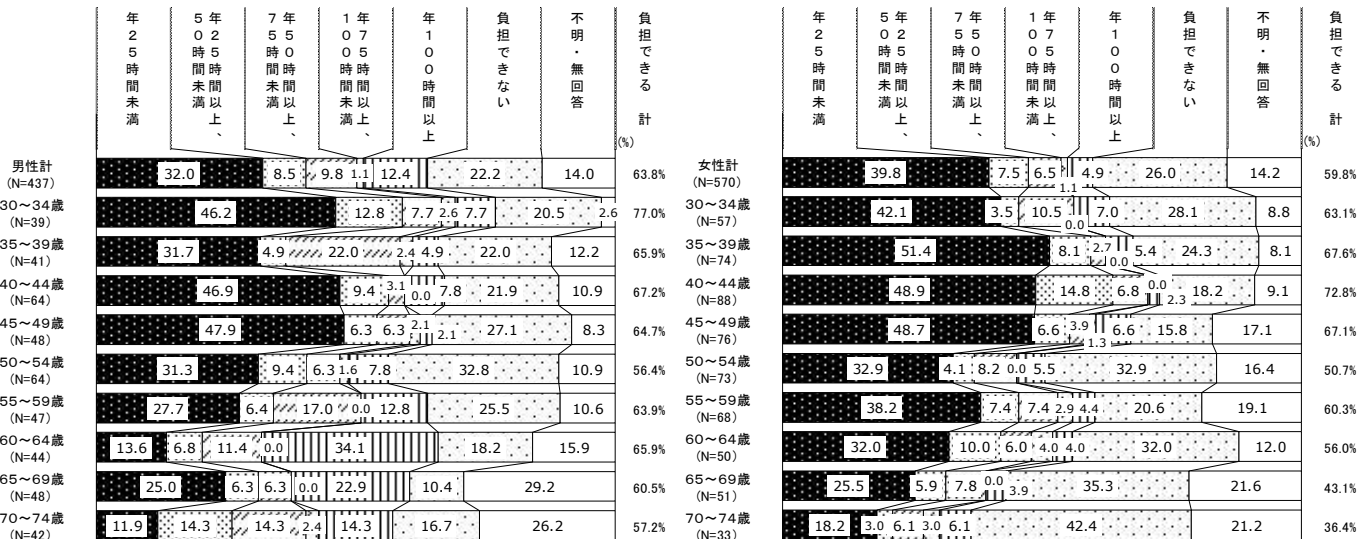
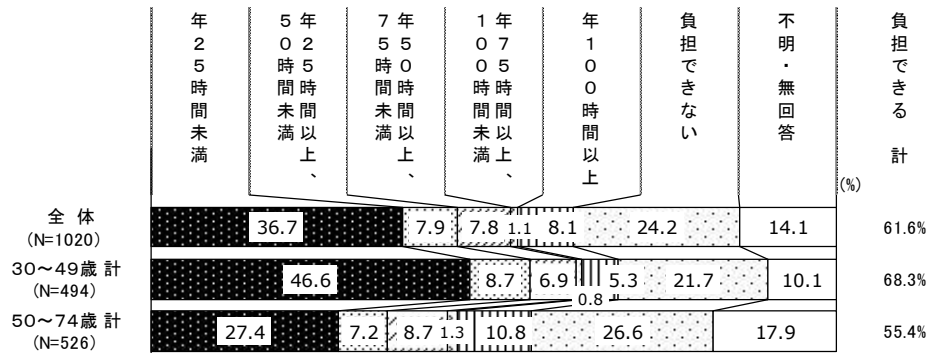
課題を解決するために負担できる時間は、全体では、「年25時間未満」が3割台半ば。調査別にみると、「30～49歳」では4割台半ば、「50～74歳」では3割強で最も高い。

「負担できる 計」(「負担できない」と「不明・無回答」を除く)の割合は、全体では6割強。調査別にみると、「30～49歳」では7割弱、「50～74歳」では5割台半ばを占める。

課題を解決するために負担できる時間について調査別にみると、「負担できない」と「不明・無回答」を除く「負担できる 計」では「30～49歳」(68.3%)が「50～74歳」(55.4%)よりも13ポイント高くなっており、「年25時間未満」では「30～49歳」(46.6%)が「50～74歳」(27.4%)よりも19ポイント高く、「年100時間以上」では「50～74歳」(10.8%)が「30～49歳」(5.3%)よりも6ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「負担できる 計」では「男性30～34歳」が77.7%で最も高くなっており、「年25時間未満」では「女性35～49歳」が5割前後で高く、「年100時間以上」では「男性60～64歳」が34.1%で最も高くなっている。

また、「年50時間以上、75時間未満」では「男性35～39歳」が22.0%で最も高くなっている。



(5) 課題解決のために負担できる経済的負担

問6 あなたがお住まいの地域における課題を解決するために、
 年間にあなたご自身が負担できる時間、経済的負担はどれくらいですか。
 それぞれの()内に、あてはまる数字をご記入ください。
 (イ) 経済的負担 年()円
 ※「課題は特にない」以外を選択した回答者が対象

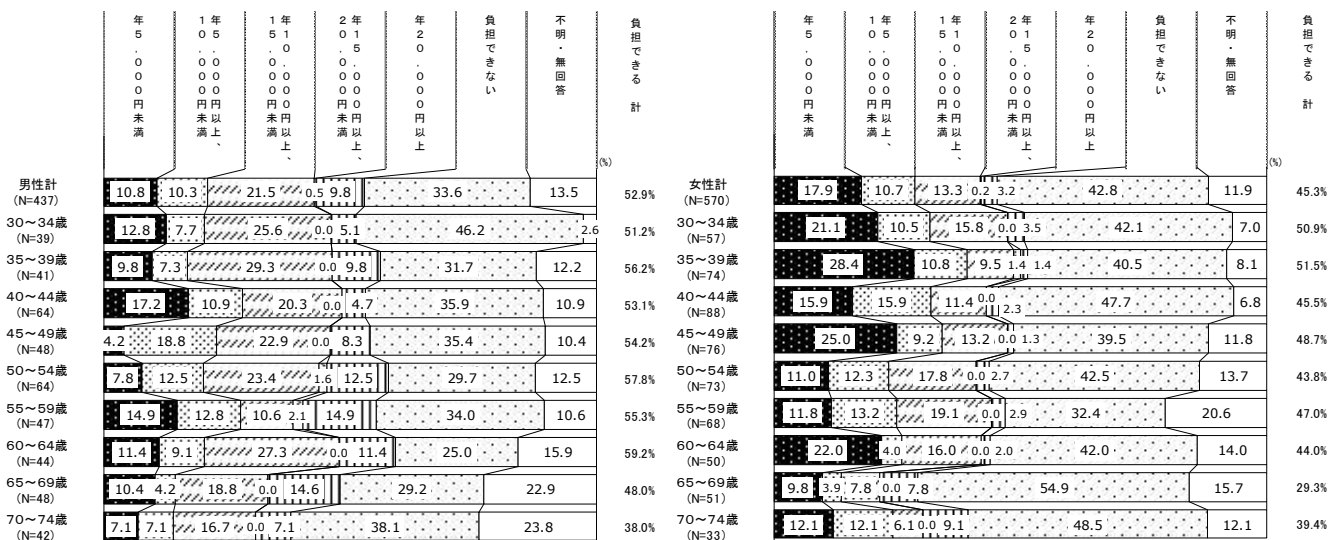
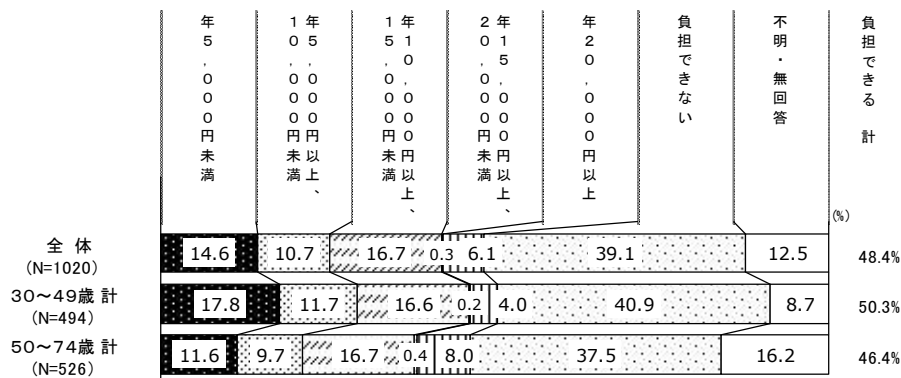
課題を解決するために負担できる金額は、全体では、「年10,000円以上15,000円未満」が1割台半ばで最も高く、調査別にみると、「30~49歳」では「年5,000円未満」が2割弱、「50~74歳」では「年10,000円以上15,000円未満」が1割台半ばでそれぞれ最も高い。

「負担できる 計」(「負担できない」と「不明・無回答」を除く)の割合は、全体では5割弱。調査別にみると、「30~49歳」では約5割、「50~74歳」では4割台半ばを占める。

課題を解決するために負担できる金額について調査別にみると、「負担できない」と「不明・無回答」を除く「負担できる 計」では「30~49歳」(50.3%)が「50~74歳」(46.4%)よりも4ポイント高くなっており、「年5,000円未満」では「30~49歳」(17.8%)が「50~74歳」(11.6%)よりも6ポイント高く、「年15,000円以上、20,000円未満」では「50~74歳」(8.0%)が「30~49歳」(4.0%)よりも4ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「年5,000円未満」では「女性35~39歳」が28.4%で最も高く、「女性45~49歳」、「女性60~64歳」も2割台となっている。

また、「10,000円以上、15,000円未満」では「男性計」(21.5%)が「女性計」(13.3%)よりも8ポイント高く、「男性35~39歳」は29.3%で最も高くなっている。



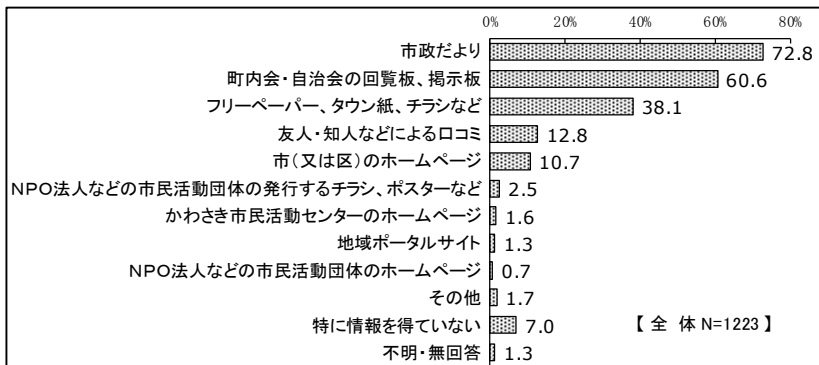
(6) 社会活動・地域活動に関する情報の入手先

問7 社会活動・地域活動に関する情報を、主にどのような媒体を通じて得ていますか。
(○は3つまで)

活動に関する情報の入手先は、全体では、「市政だより」が7割強で最も高く、「町内会・自治会の回覧板、掲示板」の約6割、「フリーペーパー、タウン紙、チラシなど」の4割弱が続く。

調査別にみると、「市政だより」が「30～49歳」では6割台半ば、「50～74歳」では8割弱で最も高い。

性・年代別にみると、「市政だより」は年代が上がるにつれて高くなり、「女性65～69歳」では9割を超える。また、「フリーペーパー、タウン紙、チラシなど」は「男性40～44歳」と「女性30～34歳」で5割を超えている。

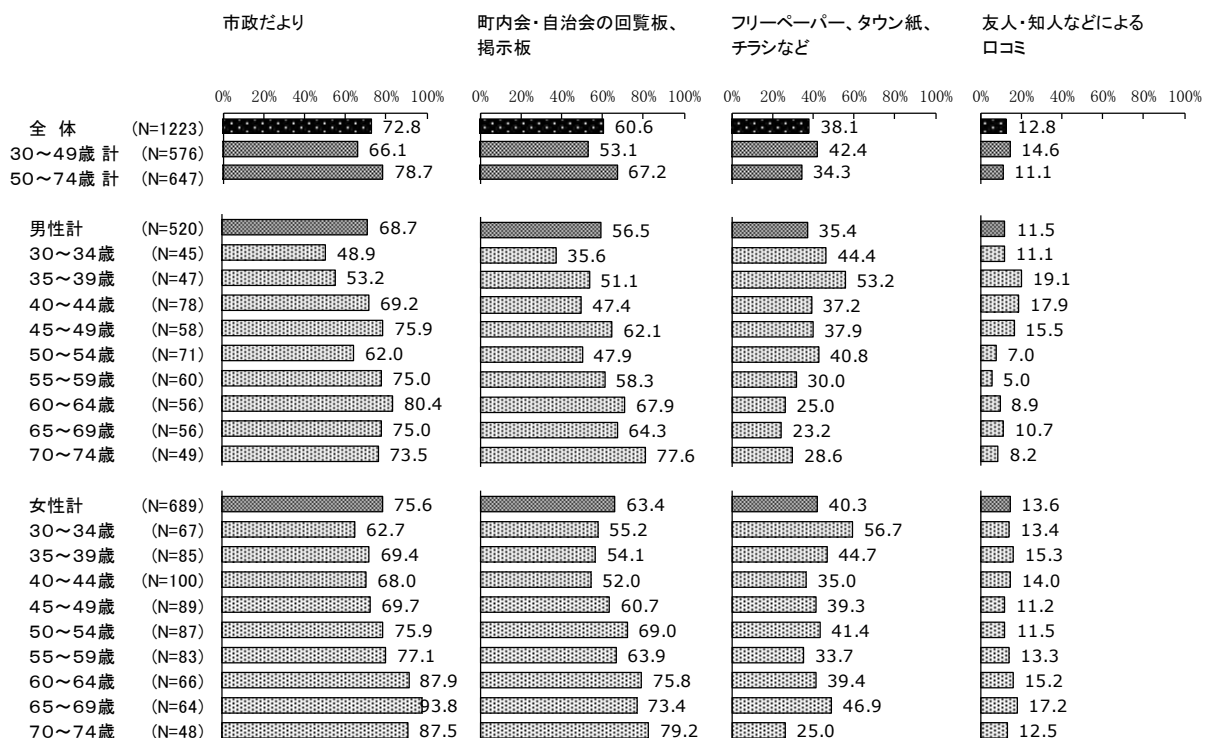


社会活動・地域活動に関する情報の入手先について上位4項目を調査別にみると、「市政だより」と「町内会・自治会の回覧板、掲示板」では「50～74歳」が「30～49歳」よりも13ポイント以上高く、「フリーペーパー、タウン紙、チラシなど」では「30～49歳」

(42.4%)が「50～74歳」(34.3%)よりも8ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「市政だより」では「男性60～64歳」、「女性60～74歳」が8割を超えて、「町内会・自治会の回覧板、掲示板」では「男性70～74歳」、「女性60～74歳」が7割台でそれぞれ高くなっている。

また、「フリーペーパー、タウン紙、チラシなど」では「男性35～39歳」と「女性30～34歳」で5割台となっている。



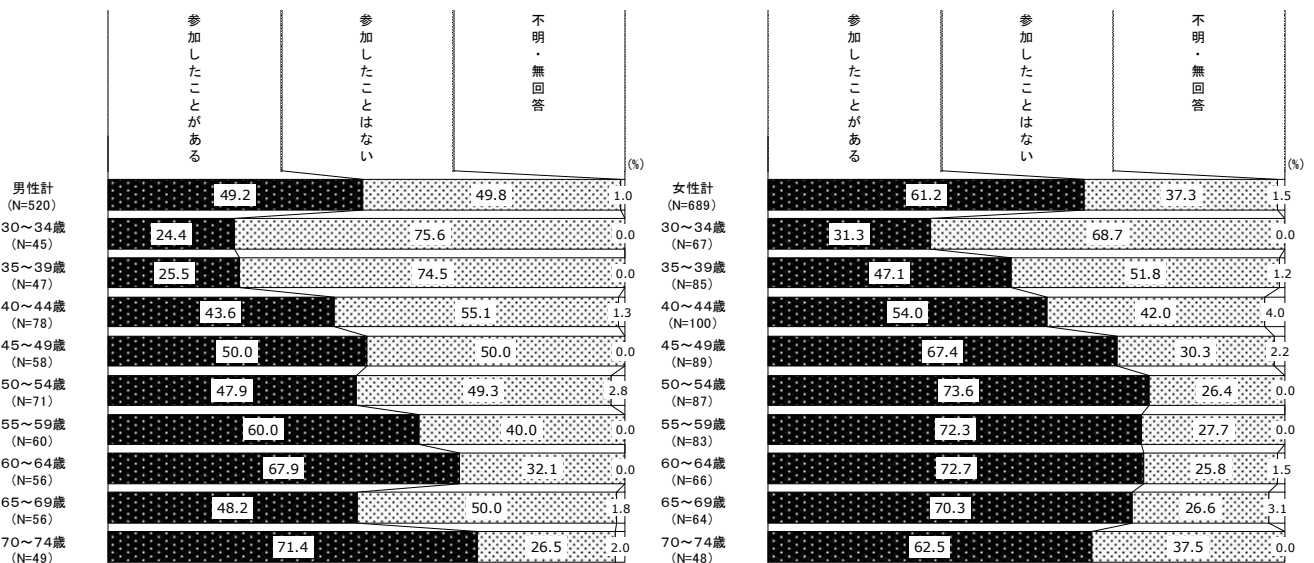
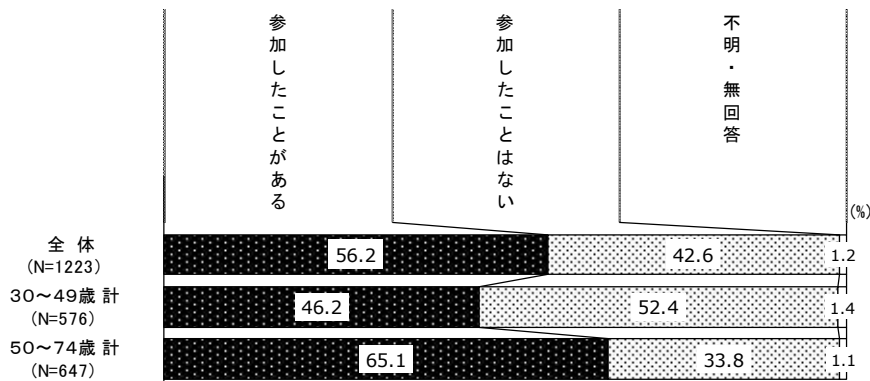
(7) 社会活動・地域活動への参加経験

問8 あなたはこれまでに社会活動・地域活動に参加したことがありますか。(○は1つ)

活動への参加経験について、「参加したことがある」割合は、全体では5割台半ば。調査別にみると、「30～49歳」では4割台半ば、「50～74歳」では6割台半ばを占める。

社会活動・地域活動への参加経験について調査別にみると、「参加したことがある」割合は「50～74歳」(65.1%)が「30～49歳」(46.2%)よりも19ポイント高くなっている。

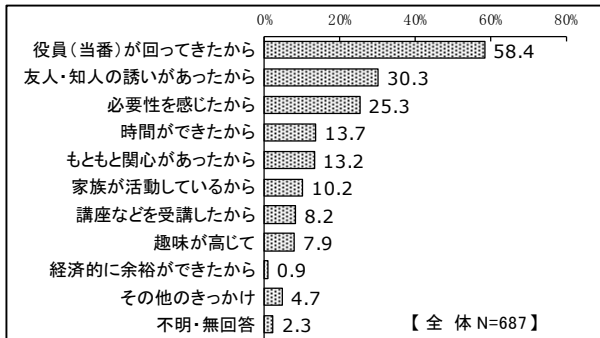
性・年代別にみると、「参加したことがある」割合は「男性70～74歳」、「女性50～69歳」で7割を超えている。



(8) 社会活動・地域活動に参加したきっかけ

問 10 社会活動・地域活動に参加したきっかけは次のどれですか。(〇は3つまで)
 ※参加経験者が対象

活動に参加したきっかけは、全体では、「役員（当番）が回ってきたから」が6割弱、次いで、「友人・知人の誘いがあったから」が約3割、「必要性を感じたから」が2割台半ば。
 調査別にみると、「役員（当番）が回ってきたから」が「30～49歳」では5割強、「50～74歳」では6割強で最も高い。

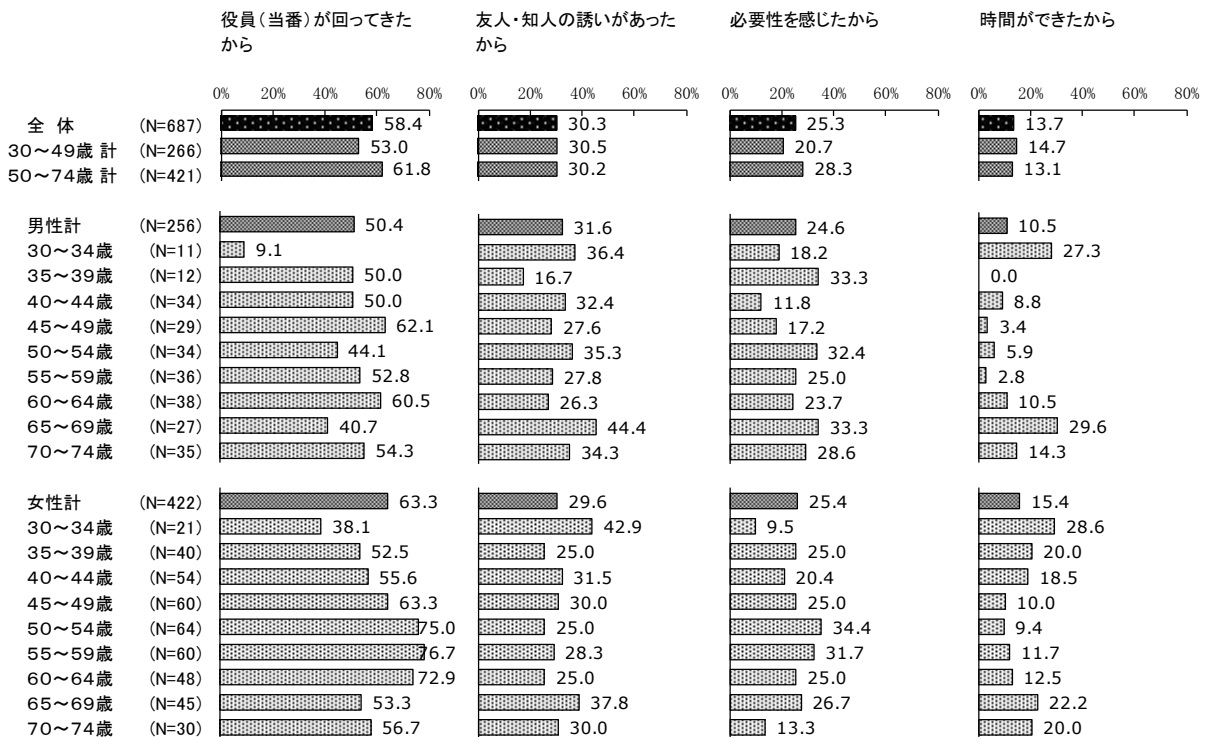


社会活動・地域活動に参加したきっかけについて上位4項目を調査別にみると、「役員（当番）が回ってきたから」と「必要性を感じたから」では「50～74歳」が「30～49歳」よりも8～9ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「役員（当番）が回ってきたから」では「女性50～64歳」が7割台で高くなっている。

また、「友人・知人の誘いがあったから」では男女ともに「30～34歳」と「65～69歳」が他の年代よりも高くなっている。

そのほか、「必要性を感じたから」では「男性35～39歳」、「男性50～54歳」、「男性65～69歳」、「女性50～59歳」で3割を超えている。



(9) 社会活動・地域活動への参加状況

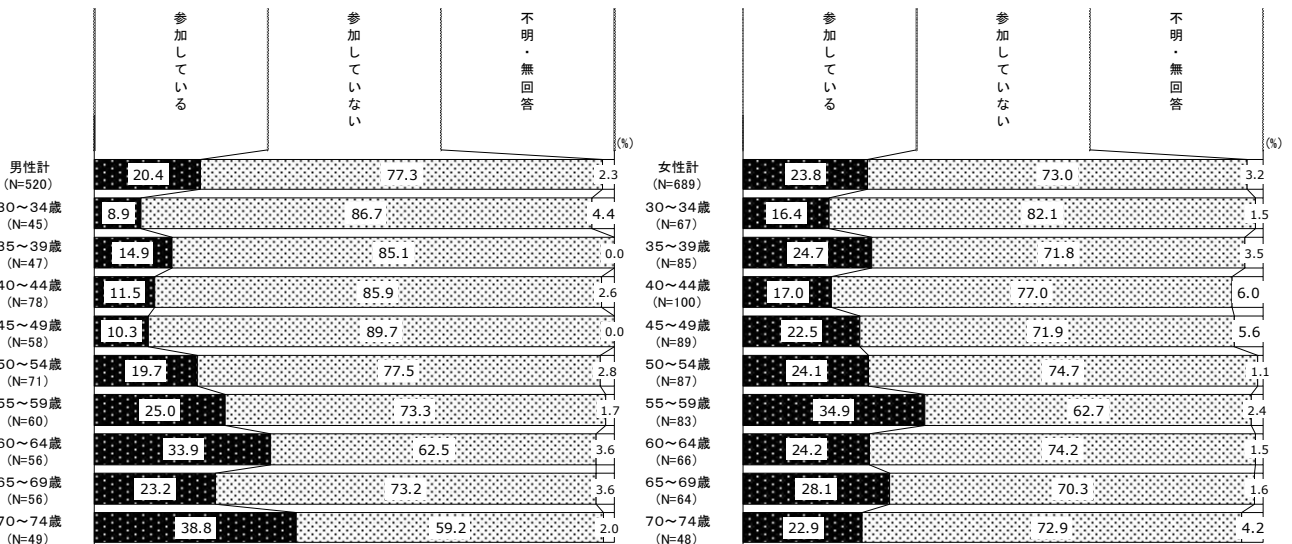
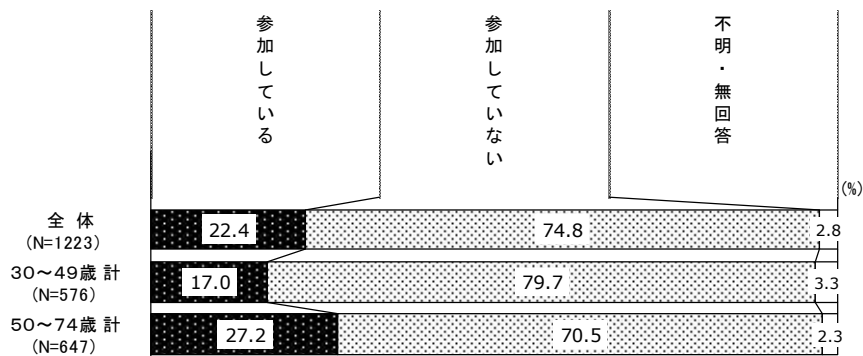
問 12 (ア) 現在、継続して社会活動・地域活動に参加していますか。(○は1つ)

活動の参加状況について、「参加している」割合は、全体では2割強。調査別にみると、「30～49歳」では2割弱、「50～74歳」では3割弱を占める。

性・年代別にみると、「参加している」割合は、「男性60～64歳」、「男性70～74歳」、「女性55～59歳」で3割超。

社会活動・地域活動への参加状況について調査別にみると、「参加している」割合は「50～74歳」(27.2%)が「30～49歳」(17.0%)よりも10ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「参加している」割合は「男性60～64歳」、「男性70～74歳」、「女性55～59歳」で3割を超えている。



(10) 活動の頻度

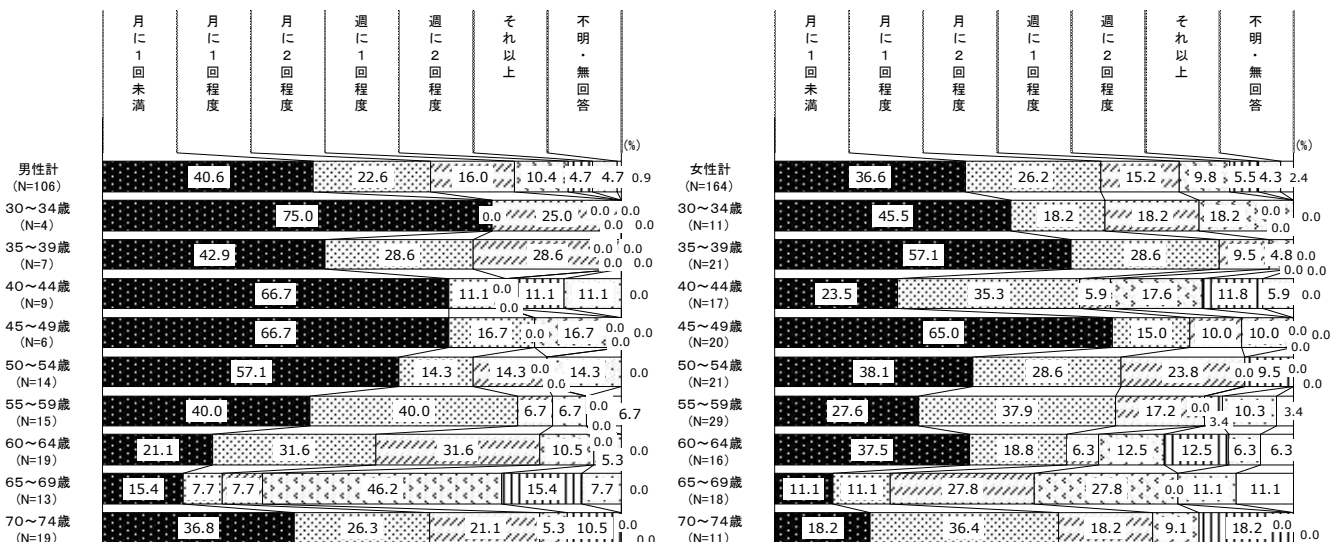
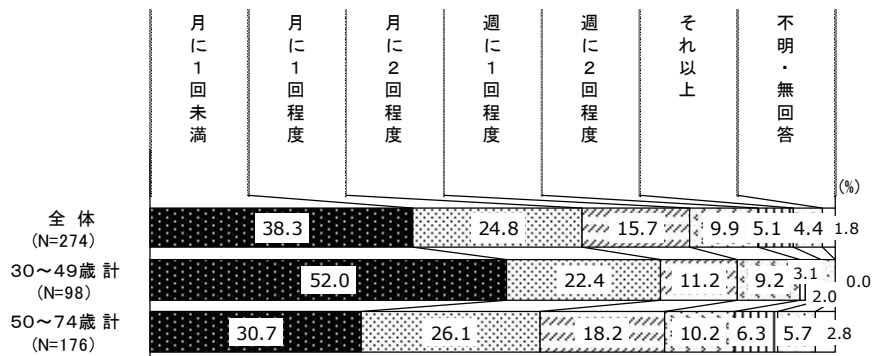
問 12 (イ) また、その活動の頻度はどれくらいですか。(○は1つ)
 ※継続参加者が対象

活動の頻度について、全体では、「月に1回未満」が4割弱、「月に1回程度」が2割台半ば、「月に2回程度」が1割台半ば。

調査別にみると、「月に1回未満」が、「30～49歳」では5割強、「50～74歳」では約3割で最も高い。

社会活動・地域活動の頻度について調査別にみると、「月に1回未満」では「30～49歳」(52.0%)が「50～74歳」(30.7%)よりも21ポイント高く、「月に2回程度」では「50～74歳」(18.2%)が「30～49歳」(11.2%)よりも7ポイント高くなっている。

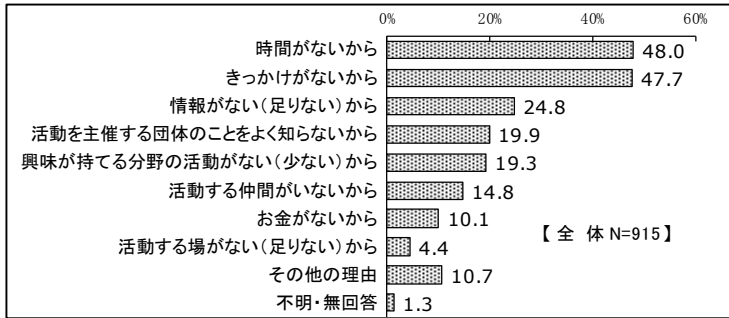
性・年代別にみると、基数は少ないものの、概ね男性の年代が上がるにつれて「月1回程度以上」の割合が高くなる傾向がみられる。



(11) 社会活動・地域活動に参加しない理由

問 13 あなたが、社会活動・地域活動に参加しない理由は何ですか。(〇は3つまで)
 ※非継続参加者が対象

活動に参加しない理由は、全体では、「時間がないから」、「きっかけがないから」が5割弱。「情報がない(足りない)から」が2割台半ば、「活動を主催する団体のことをよく知らないから」、「興味が持てる分野の活動がない(少ない)から」が2割弱。

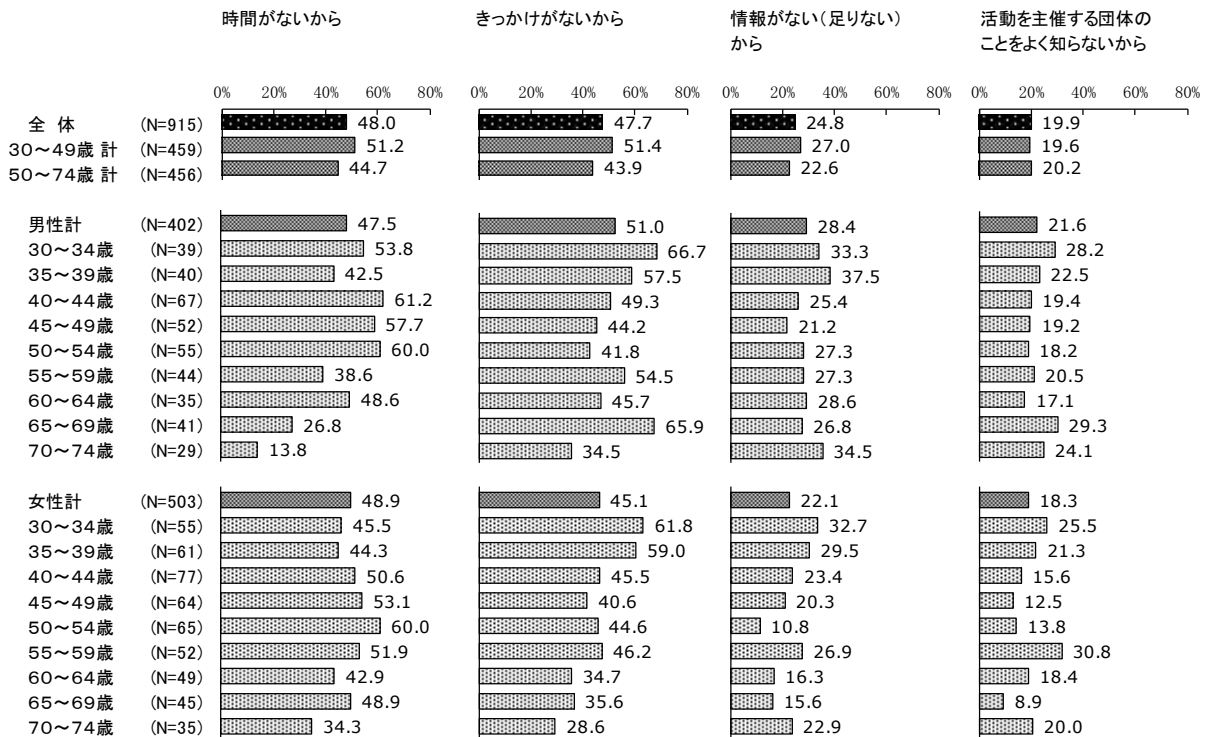


社会活動・地域活動に参加しない理由について上位4項目を調査別にみると、「時間がないから」と「きっかけがないから」では「30～49歳」が「50～74歳」よりも7～8ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「時間がないから」では「男性40～54歳」と「女性50～54歳」が6割前後で高くなっている。

「きっかけがないから」では男女ともに「30～34歳」が6割台で最も高くなっており、男性は「65～69歳」も同様に高くなっている。

また、「情報がない(足りない)から」では「男性30～39歳」、「男性70～74歳」、「女性30～34歳」が3割を超えている。



(12) 社会活動・地域活動への参加による対価の取得状況

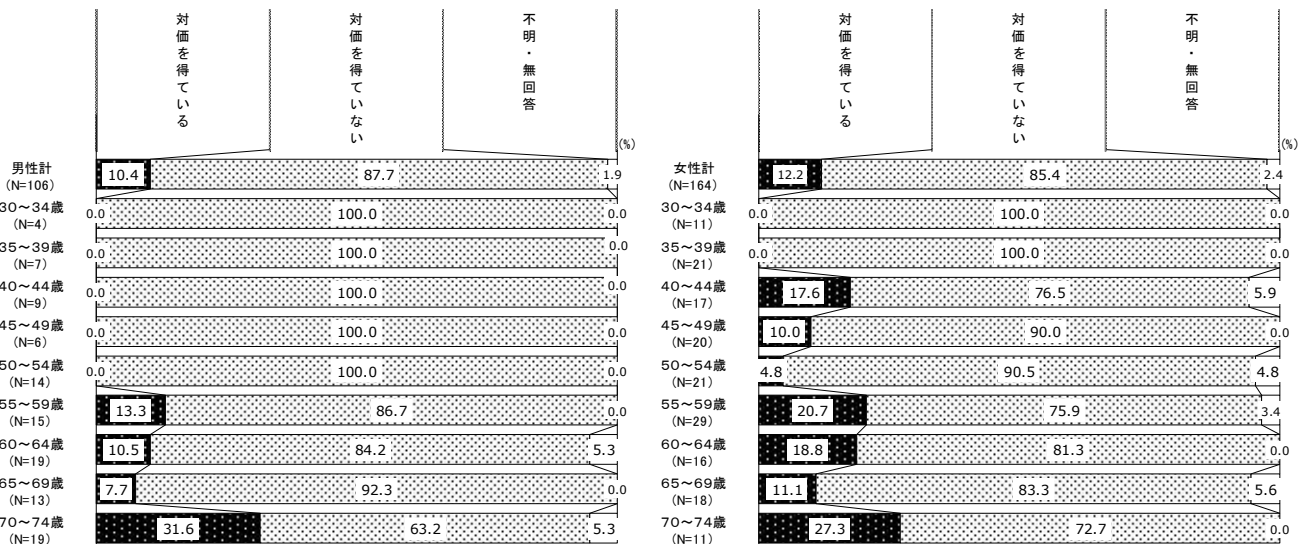
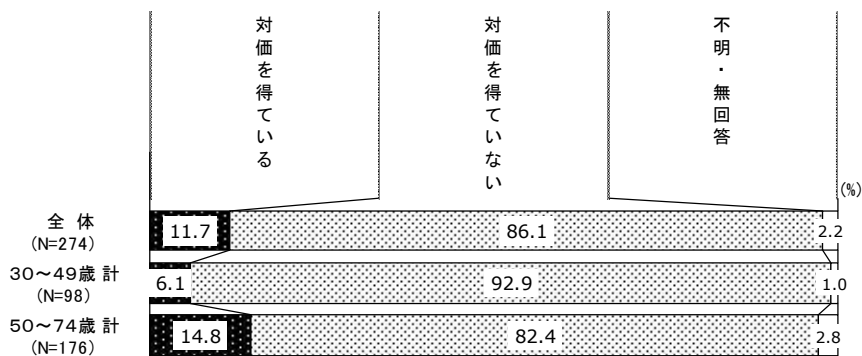
問 16 (ア) あなたは、社会活動・地域活動へ参加することで金銭による対価を得ていますか。(○は1つ)

活動参加による対価の取得状況は、全体では、「対価を得ている」が1割強。一方、「対価を得ていない」が8割台半ば。

調査別にみると、「対価を得ていない」が、「30～49歳」では9割強、「50～74歳」では8割強で最も高い。

社会活動・地域活動への参加による対価の取得状況について調査別にみると、「対価を得ている」では「50～74歳」(14.8%)が「30～49歳」(6.1%)よりも9ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、基数は少ないものの、「対価を得ている」では男女ともに「70～74歳」が最も高くなっている。



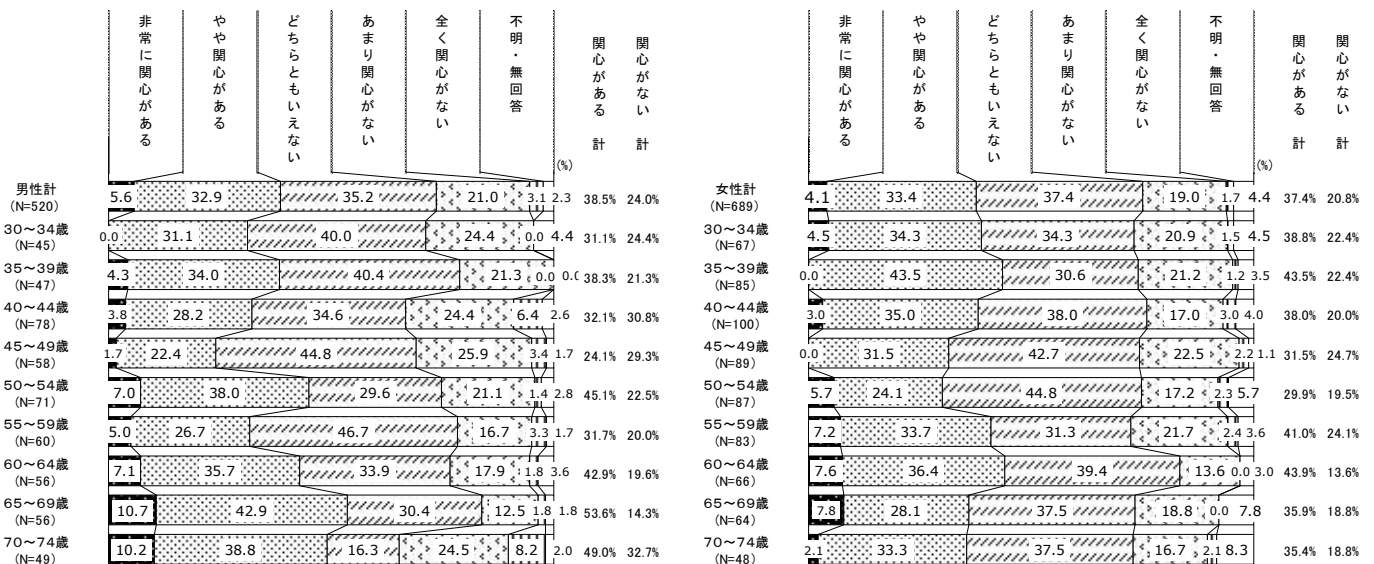
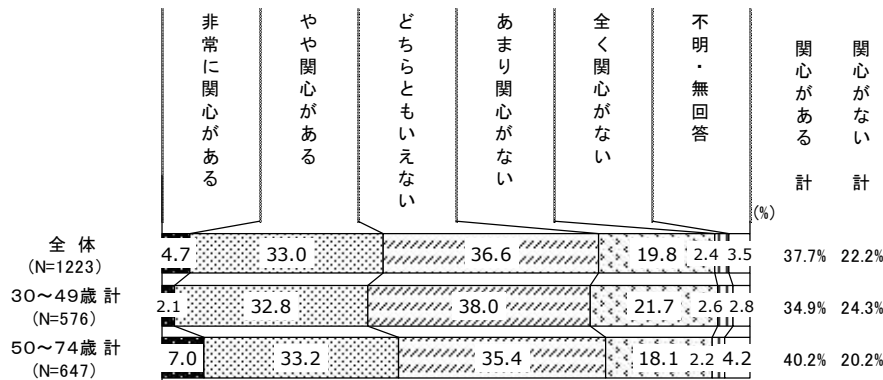
(13) 社会活動・地域活動への関心度

問 17 あなたは、社会活動・地域活動にどの程度関心がありますか。(○は1つ)

活動への関心度について、「非常に関心がある」と「やや関心がある」を合わせた「関心がある計」は、全体では4割弱。調査別にみると、「30～49歳」では3割台半ば、「50～74歳」では約4割を占める。

社会活動・地域活動への関心度を調査別にみると、「非常に関心がある」と「やや関心がある」を合わせた「関心がある計」では、「50～74歳」(40.2%)が「30～49歳」(34.9%)よりも5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「関心がある計」では、「男性50～54歳」、「男性60～74歳」、「女性35～39歳」、「女性55～64歳」で4割を超えており、「男性65～69歳」は53.6%で最も高くなっている。

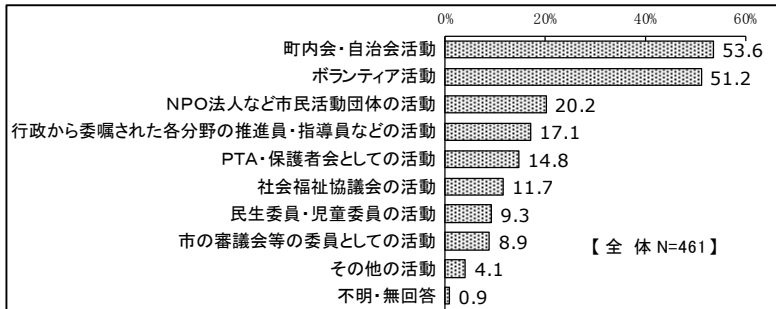


(14) 関心のある社会活動・地域活動

問 18 あなたが関心のある社会活動・地域活動は次のどれですか。(〇はいくつでも)
 ※「非常に関心がある」または「やや関心がある」を選択した回答者が対象

関心がある活動内容は、全体では、「町内会・自治会活動」と「ボランティア活動」がともに5割強。

調査別にみると、「30～49歳」では「町内会・自治会活動」が約6割、「50～74歳」では「ボランティア活動」が5割強で最も高い。

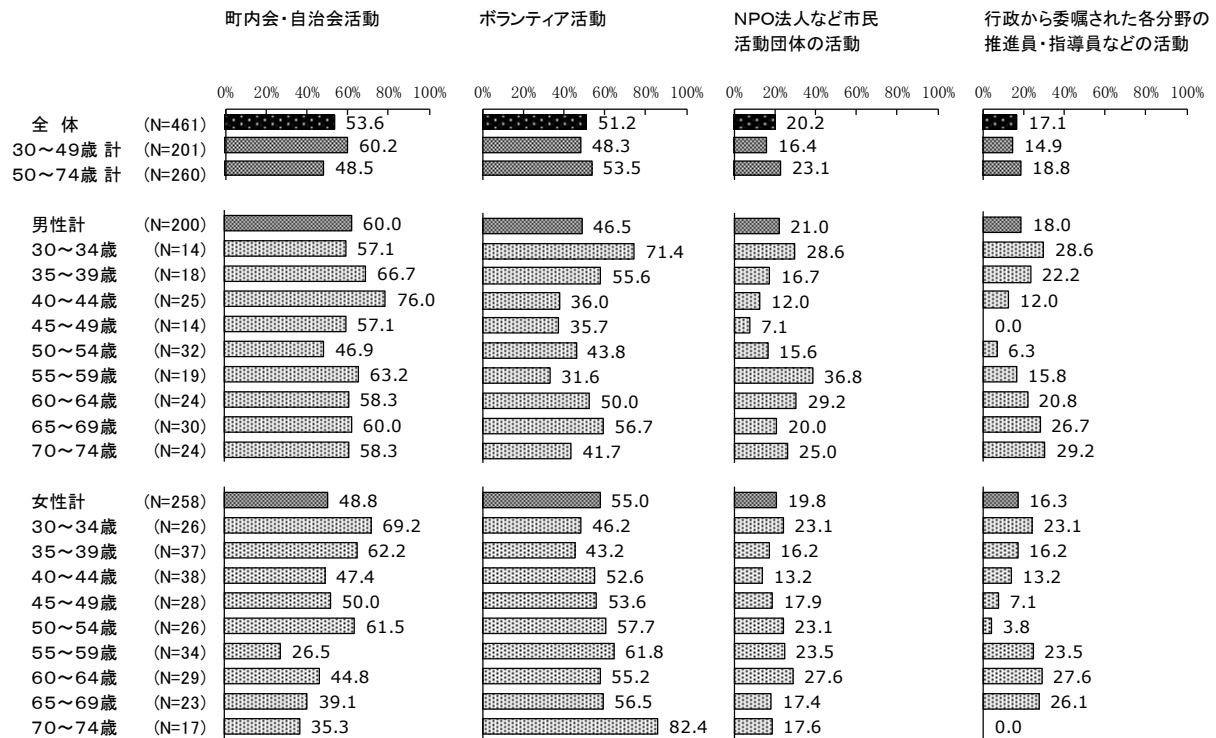


関心のある社会活動・地域活動について上位4項目を調査別にみると、「町内会・自治会活動」では「30～49歳」(60.2%)が「50～74歳」(48.5%)よりも12ポイント高く、「ボランティア活動」、「NPO法人など市民活動団体の活動」、「行政から委嘱された各分野

の推進員・指導員などの活動」では「50～74歳」が「30～49歳」よりも4～7ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「町内会・自治会活動」では「男性40～44歳」(76.0%)と「女性30～34歳」(69.2%)がそれぞれ高くなっている。

また、基数は少ないものの、「ボランティア活動」では概ね女性の年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向がみられる。

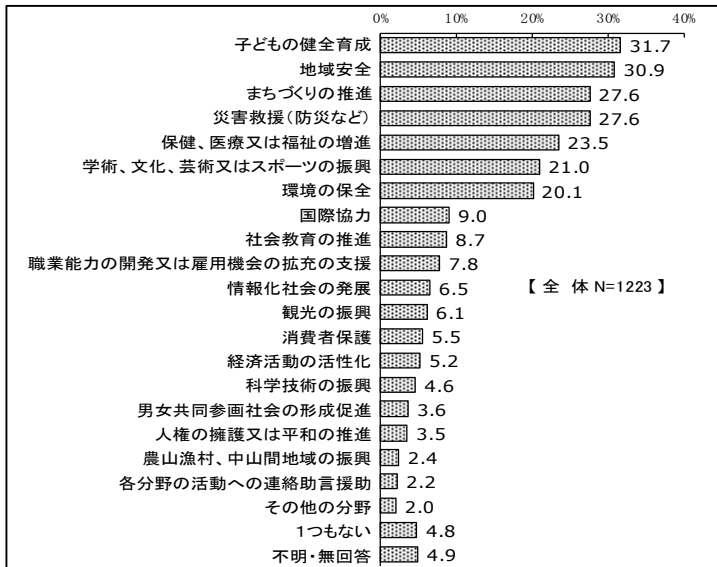


(15) 参加したい社会活動・地域活動の分野

問 20 あなたは、どのような分野の社会活動・地域活動であれば参加したいと思いますか。
(〇はいくつでも)

参加したい活動分野について、全体では、「子どもの健全育成」、「地域安全」が3割強、次いで「まちづくりの推進」、「災害救援（防災など）」が3割弱、「保健、医療又は福祉の増進」、「学術、文化、芸術又はスポーツの振興」が2割強。

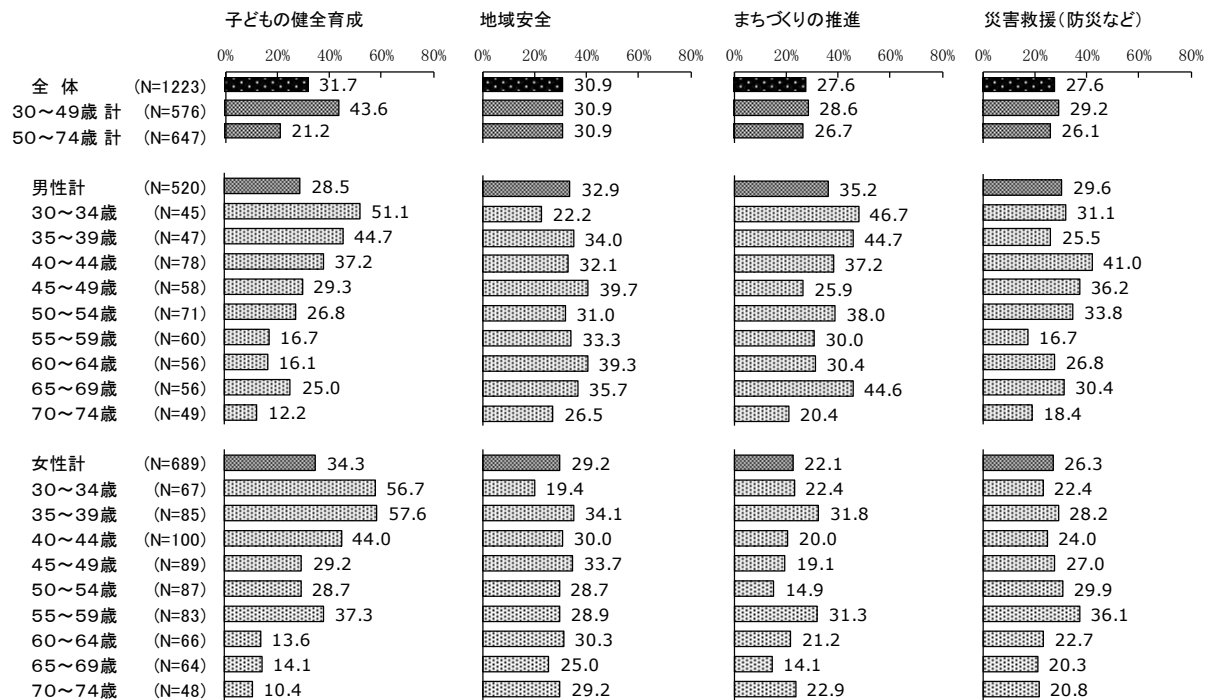
調査別にみると、「30～49歳」では「子どもの健全育成」が4割強で最も高い。



参加したい社会活動・地域活動の分野について上位4項目を調査別にみると、「子どもの健全育成」では「30～49歳」(43.6%)が「50～74歳」(21.2%)よりも22ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「子どもの健全育成」では「男性30～34歳」と「女性30～39歳」が5割台で高くなっている。

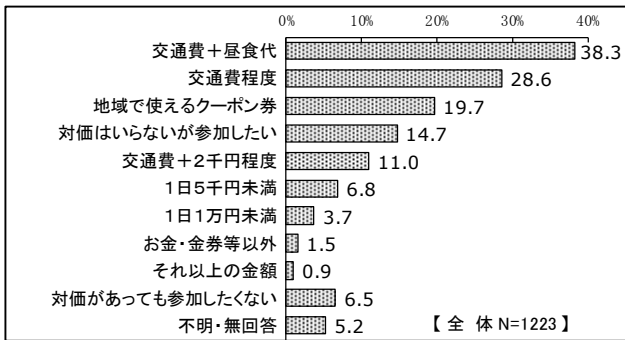
また、「地域安全」では「男性45～49歳」と「男性60～64歳」が、「まちづくりの推進」では「男性30～39歳」、「男性65～69歳」がそれぞれ4割前後で高くなっている。



(16) どのような対価があれば社会活動・地域活動に参加したいか

問 22 あなたが、社会活動・地域活動をする場合、どのような対価があれば参加したいですか。(〇は3つまで)

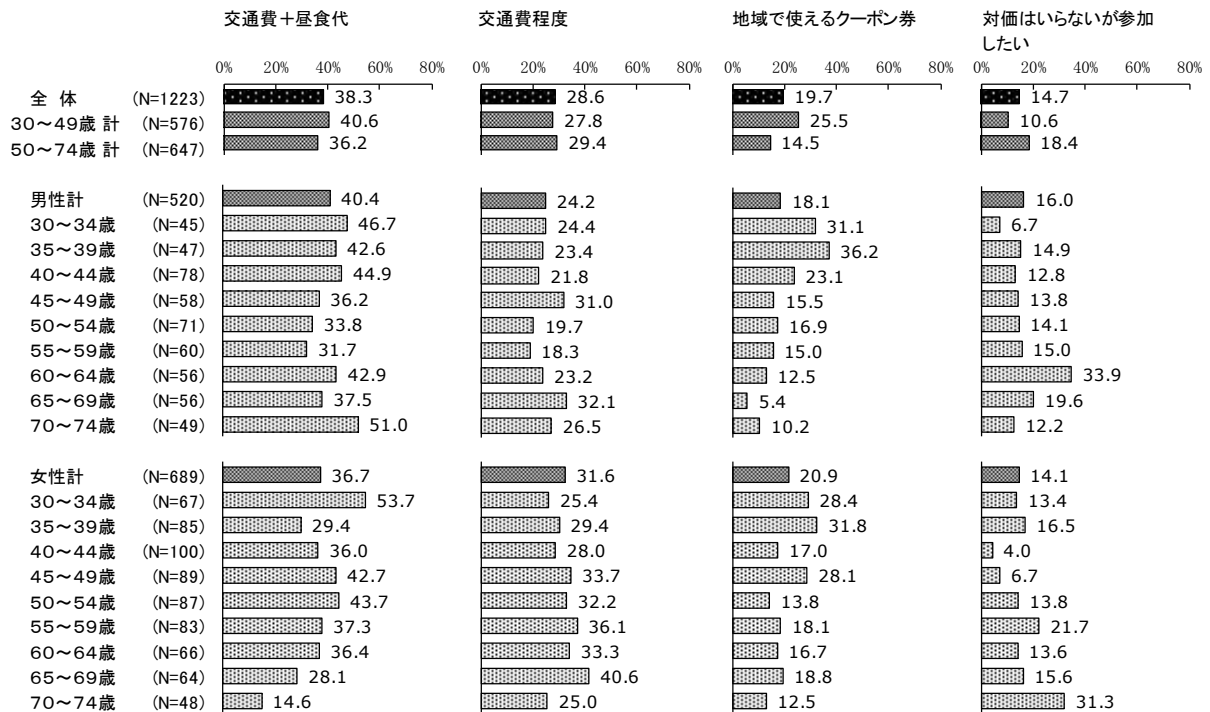
どのような対価があれば活動したいかについて、全体では、「交通費+昼食代」が4割弱で最も高く、次いで「交通費程度」が3割弱、「地域で使えるクーポン券」が2割弱で続く。一方、「対価はிரないが参加したい」が1割台半ば。
 調査別にみると、「交通費+昼食代」が、「30~49歳」では4割強、「50~74歳」では3割台半ばで最も高い。



どのような対価があれば社会活動・地域活動に参加したいかについて、上位4項目を調査別にみると、「地域で使えるクーポン券」では「30~49歳」(25.5%)が「50~74歳」(14.5%)よりも11ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「交通費+昼食代」では「男性70~74歳」と「女性30~34歳」が5割を超えて高くなっている。

また、「地域で使えるクーポン券」では男女の「30~39歳」と「女性45~49歳」が3割前後で高くなっている。

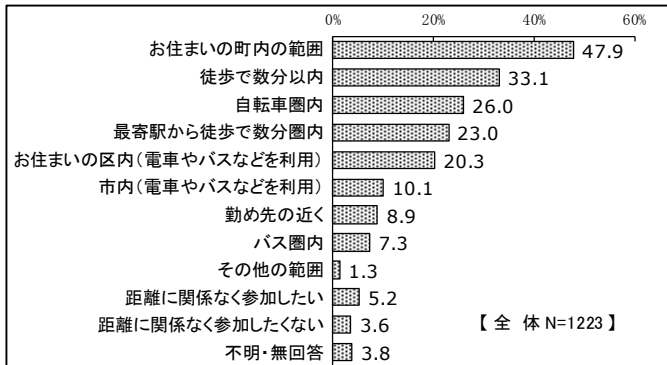


(17) 参加しやすい活動範囲

問 26 あなたが参加しやすい活動範囲は、次のどれですか。(〇はいくつでも)

参加しやすい活動範囲について、全体では、「お住まいの町内の範囲」が5割弱で最も高く、次いで「徒歩で数分以内」が3割強、「自転車圏内」が2割台半ば、「最寄駅から徒歩で数分圏内」が2割強で続く。

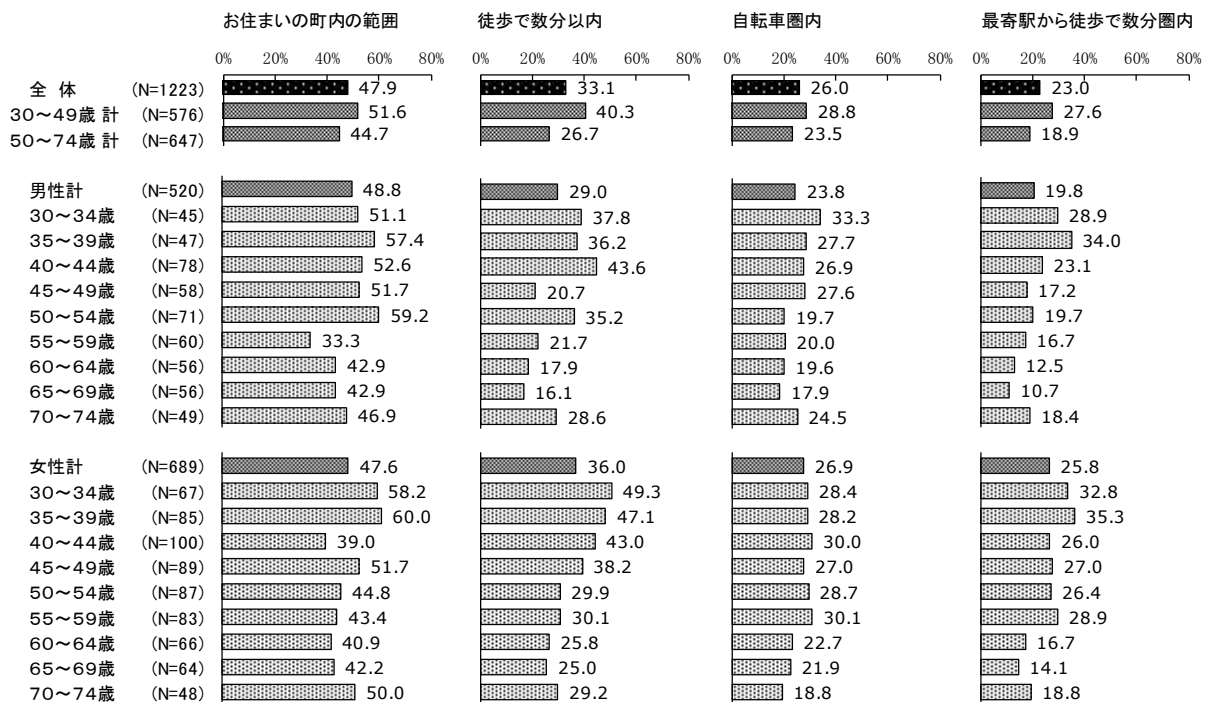
調査別にみると、「お住まいの町内の範囲」が「30～49歳」では5割強、「50～74歳」では4割台半ばで最も高い。



参加しやすい活動範囲について上位4項目を調査別にみると、「徒歩で数分以内」では「30～49歳」(40.3%)が「50～74歳」(26.7%)よりも14ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「お住まいの町内の範囲」では「男性35～39歳」、「男性50～54歳」、「女性30～39歳」が6割前後で高くなっている。

また、「徒歩で数分以内」では女性の年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられる。

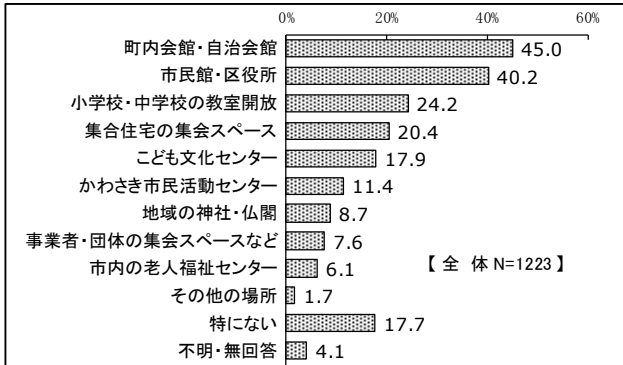


(18) 地域で活動を行う場合に気軽に使える場所

問 27 あなたが、地域で活動を行う場合に、気軽に使える場所は次のどれですか。
(○はいくつでも)

気軽に使える場所は、全体では、「町内会館・自治会館」が4割台半ばで最も高く、次いで「市民館・区役所」が約4割で続く。

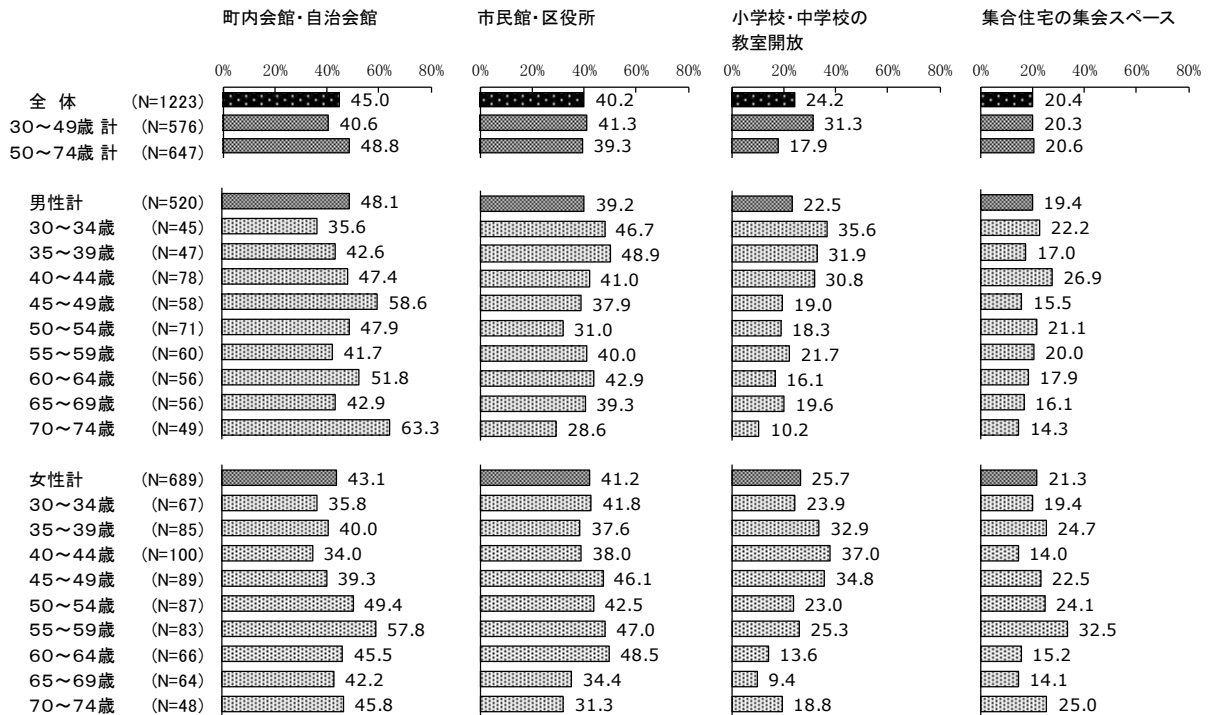
調査別にみると、「30～49歳」では「市民館・区役所」が4割強、「50～74歳」では「町内会館・自治会館」が5割弱で最も高い。



地域で活動を行う場合に気軽に使える場所について、上位4項目を調査別にみると、「町内会館・自治会館」では「50～74歳」(48.8%)が「30～49歳」(40.6%)よりも8ポイント高く、「小学校・中学校の教室開放」では「30～49歳」(31.3%)が「50～74歳」(17.9%)よりも13ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「町内会館・自治会館」では「男性70～74歳」が6割を超えて最も高く、「男性45～49歳」と「女性55～59歳」も5割台後半で高くなっている。

また、「市民館・区役所」では男性は「30～39歳」、女性は「45～64歳」で高くなっている。

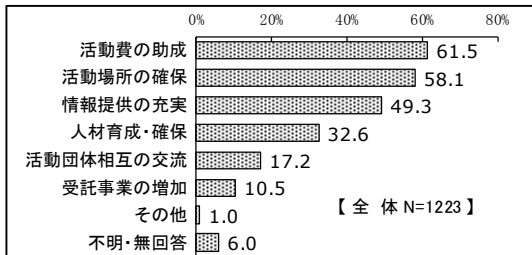


(19) 公益性が高い社会活動・地域活動に対して行政が支援すべき項目

問 29 公益性が高い社会活動・地域活動に対して、行政が支援すべきだと思う項目はどれですか。(〇はいくつでも)

行政が支援すべきと思う項目について、全体では、「活動費の助成」が6割強、「活動場所の確保」が6割弱、「情報提供の充実」が約5割。

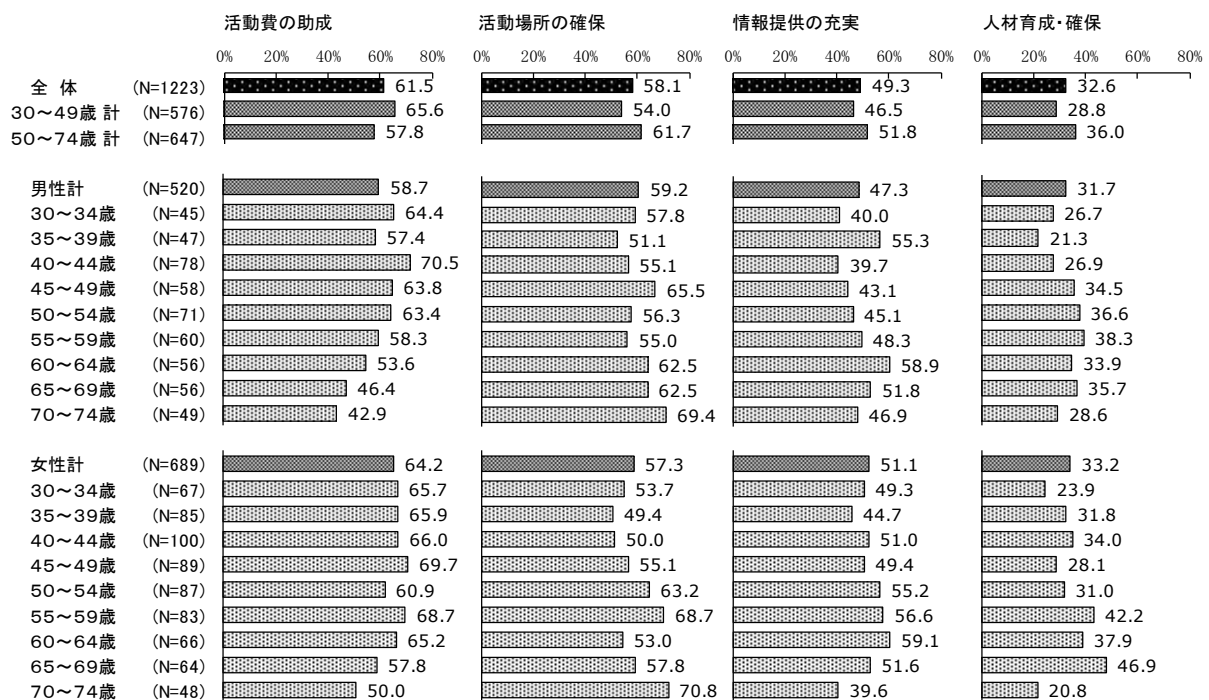
調査別にみると、「30～49歳」では「活動費の助成」が6割台半ば、「50～74歳」では「活動場所の確保」が6割強で最も高い。



公益性が高い社会活動・地域活動に対して行政が支援すべき項目について、上位4項目を調査別にみると、「活動費の助成」では「30～49歳」(65.5%)が「50～74歳」(57.8%)よりも8ポイント高く、「活動場所の確保」、「情報提供の充実」、「人材育成・確保」では「50～74歳」が「30～49歳」よりも5～8ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「活動費の助成」では「男性40～44歳」が、「活動場所の確保」では男女の「70～74歳」と「女性55～59歳」が、それぞれ7割前後で高くなっている。

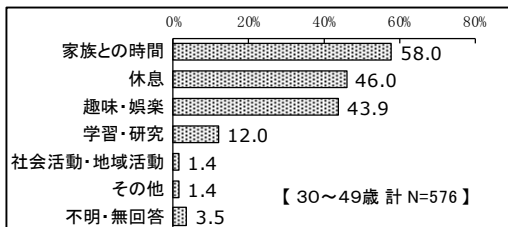
また、「情報提供の充実」では「男性35～39歳」、「男性60～64歳」、「女性50～64歳」が5割台半ばとなっている。



(20) 日常的な自由時間の使い方（余暇活動）（30～49歳調査）

問 37 あなたの日常的な自由時間の使い方（余暇活動）は次のどれですか。（○はいくつでも）

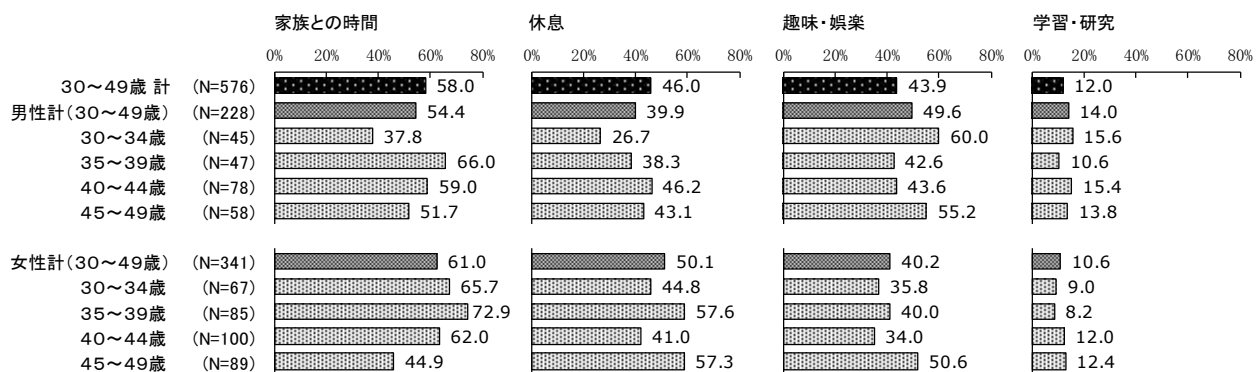
日常的な時間の使い方について、「家族との時間」が6割弱、次いで「休息」、「趣味・娯楽」が4割台半ば前後で続く。一方で、「社会活動・地域活動」は1.4%にとどまっている。



日常的な自由時間の使い方について、上位4項目を性・年代別にみると、「家族との時間」では男女ともに「35～39歳」で7割前後と最も高くなっている。

また、「休息」では男性の年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向がみられる。

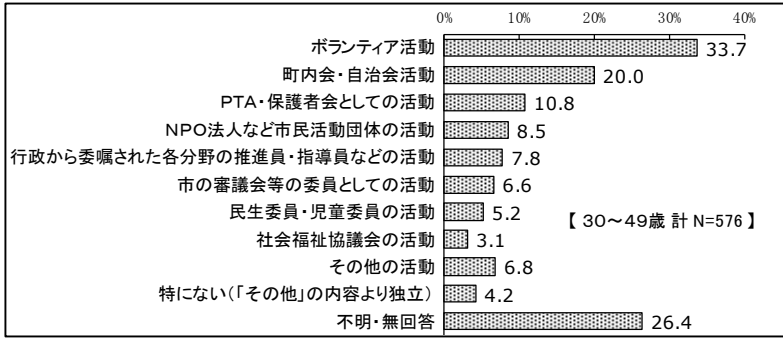
「趣味・娯楽」では「男性30～34歳」が6割で最も高くなっている。



(21) 自由時間が増えたらしてみたい活動（30～49歳調査）

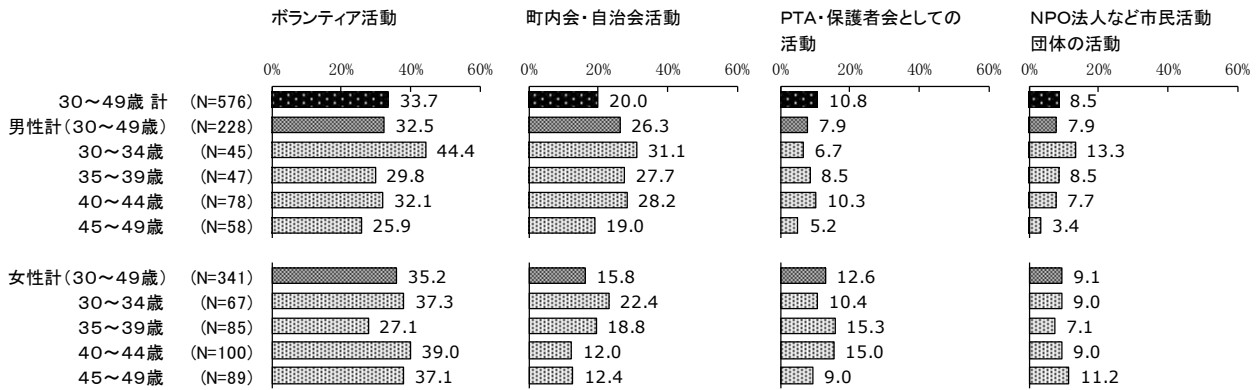
問 40 あなたは、自由時間が増えたら、してみたいと思う活動はありますか。
次の中から選んでください。（〇はいくつでも）

自由時間が増えたらしてみたい活動は、「ボランティア活動」が3割強と最も高く、次いで「町内会・自治会活動」が2割。



自由時間が増えたらしてみたい活動について、上位4項目を性・年代別にみると、「ボランティア活動」では「男性30～34歳」が44.4%で最も高くなっている。

また、「町内会・自治会活動」では男女ともに概ね年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられる。



(22) 就業状況（50～74歳調査）

問 35 あなたの就業状況はどれにあてはまりますか。
 (ア) 就業状況 (○は1つ)

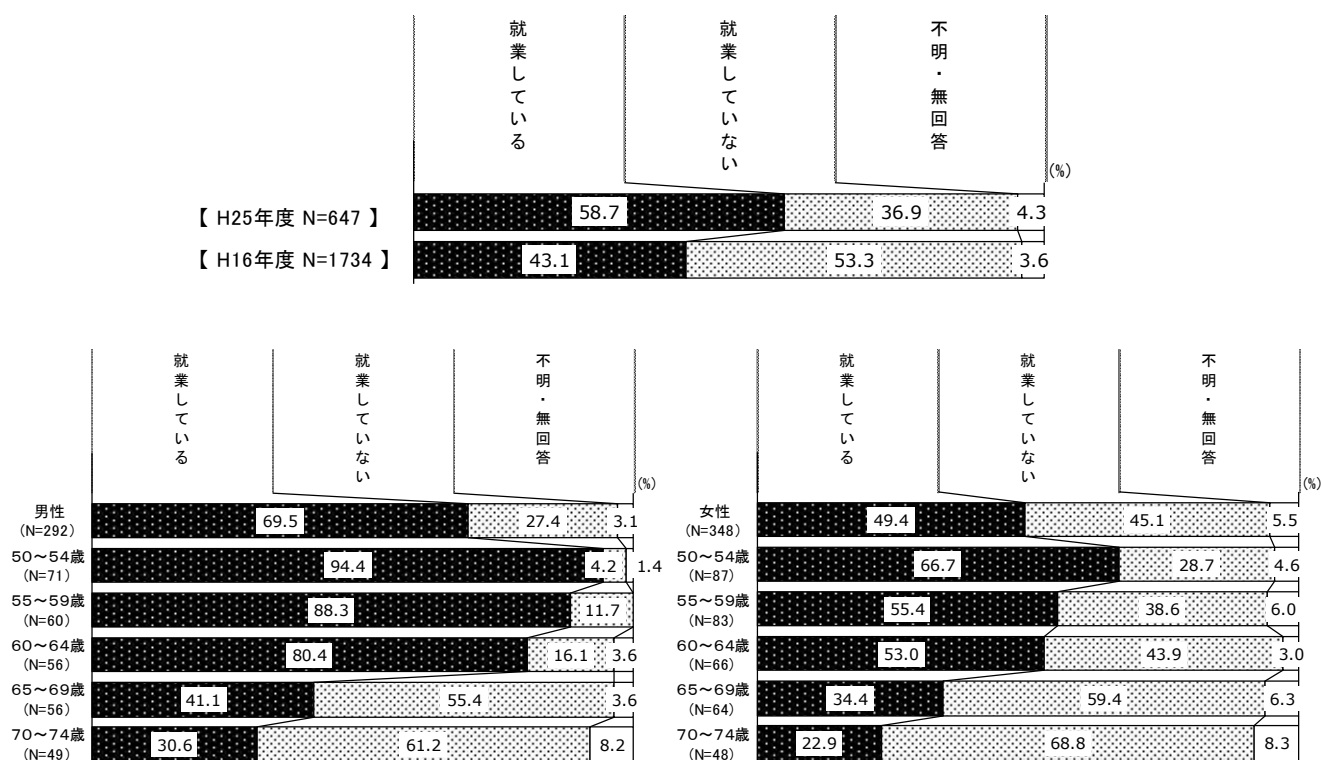
「就業している」割合は、6割弱。「就業していない」割合は、3割台半ば。
 平成16年度調査（※下注参照）と比較すると、就業率は16ポイント上昇。

就業状況は、「就業している」が58.7%を占め、「就業していない」は36.9%となっている。

平成16年度調査（※下注参照）と比較すると、就業率は16ポイント上昇している。

性・年代別にみると、「就業している」割合は「男性」（69.5%）が「女性」（49.4%）よりも20ポイント高くなっている。

また、男女ともに年代が上がるにつれて就業率が低くなる傾向がみられ、男性は「50～64歳」の8割以上が「就業している」と回答している。



※注 平成16年度に川崎市が実施した「シニア世代のライフスタイルと生活設計に関する調査」と、本設問の内容・選択肢が一致していることから、経年比較を行っている。

<平成16年度調査の概要>

- ・市内在住の50歳以上75歳未満の4,200人（各区600人）に発送、1,734件（41.3%）を回収
- ・基本属性、住まい、食生活、生活支援サービスの利用、世帯構成と収入、仕事、情報通信機器（パソコン）の利用、社会活動、ライフスタイル、今後の生活設計などについて調査

※市ホームページ（シニア世代のライフスタイルと生活設計に関する調査報告書）：

http://www.city.kawasaki.jp/200/cmsfiles/contents/0000009/9561/seniorlifestyle_repo.pdf

(23) 自由記述欄の内容（分類及び意見数（のべ））

分 類	意見数（のべ）	
	30～49歳 調査	50～74歳 調査
ア 趣旨に賛同する意見	137	99
イ 参加のあり方に関する意見 （ア）一部だけでなく幅広い意見や参加を求める必要性 （イ）参加しやすい環境づくりや参加しづらい層の参加促進の必要性 （ウ）その他参加のあり方について	38	15
ウ 連携・協力を担う主体の役割に関する意見 （ア）行政の役割や機能の重要性 （イ）市民や地域の役割の重要性（役割への期待） （ウ）その他連携・協力のあり方	46	46
エ 連携・協力に向けての課題に関する意見 （ア）取り組みについての広報・情報発信・交流が必要 （イ）それぞれの主体の目標・活動内容や役割分担・責任の明確化が必要 （ウ）市民がもっと当事者意識を持つことが必要 （エ）その他連携・協力に向けての提案など	76	96
オ その他の意見（※）	101	104
計	398	360

※主な「その他の意見」

- ・課題が不明確であるとの意見
- ・連携・協力は難しい、参加できない、きっかけがないとの意見
- ・機会があれば参加したい、協力したいとの意見
- ・その他感想やアンケートの内容等に関する意見 など

平成25年度市民自治の実態等に関する調査 概要版

平成26年3月発行

【発行】 川崎市

【編集】 総合企画局自治政策部

〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地

TEL:044-200-2168 FAX:044-200-3800

E-mail:2Oziti@city.kawasaki.jp

「平成25年度市民自治の実態等に関する調査報告書」の全文を、市ホームページで公表
していますので併せてご参照ください。